

こころが元気な社会をめざして。

充実した生活を送るためにはからだの健康と同じようにこころの健康も大切ですが、現代の生活の中では仕事や人間関係の悩みやストレスなどから、気持ちが弱くなったり自信を失ったり、精神的な病気にかかったりすることが少なくありません。私たちは、こころへの負担が少ない環境と精神疾患に理解のある社会をめざし、精神疾患についての啓発活動や自殺防止のプロジェクトを支援しています。

精神疾患への啓発活動

うつ病や統合失調症などの精神疾患は、適切な治療によって症状が改善される病気であるにもかかわらず、社会にはいまだに偏見や誤解が残り、精神疾患をもつ人たちの社会生活を狭めています。

精神疾患に対する正しい知識の普及と、病気をもつ人たちの社会復帰や生きがい発見を応援しています。

第5回全国こころの美術展

精神疾患をもつ人たちの絵画の公募展「全国こころの美術展」には、毎回数百点の応募があり、入選作品100点が一般公開されます。精神疾患をもつ人にとっては、作品を通じて言葉では伝えきれない気持ちをありのままに表現し、自分自身の存在を社会へ示すきっかけとなります。また、想像力豊かな作品は、一般の人々の精神疾患に対する理解の促進につながります。

2004年の第4回展に続いて2005年の第5回展の開催を支援しました。

支援団体:財団法人全国精神障害者家族会連合会(全家連) [主催]
<http://www.zenkaren.or.jp>

[共催]:(社)日本精神科病院協会、(社)福)全国精神障害者社会復帰施設協会、(NPO)全国精神障害者地域生活支援協議会、全国精神保健福祉相談員会、(NPO)全国精神障害者団体連合会、(社)日本精神保健福祉士協会、(社)日本精神科看護技術協会、(社)日本作業療法士協会



自殺防止プロジェクト

日本では1998年以降、毎年3万人以上の人々が自殺で亡くなっています。理由はさまざまですが、社会的な弱者が「死」へと追い詰められていく実情があると言われています。また、遺された人々は、長期にわたって深刻な心理的影響を受けると考えられています。

自殺防止は、社会全体で取り組むべき大きなテーマの一つとなっています。

世界自殺予防デー 緊急フォーラム

2005年9月、日本で初めて開催されたWHO(世界保健機関)の世界自殺予防デーと連動した緊急フォーラムを支援しました。

医師や弁護士、NPO、自死遺族、僧侶などさまざまな立場から自殺対策に携わる人々が集まり、「日本の自殺対策のグランドデザイン(全体構想)」についてディスカッションを行い、横断的なネットワークづくりをめざしました。

支援団体:特定非営利活動法人自殺対策支援センターライフリンク
<http://www.lifelink.or.jp>



あなたにもできる自殺防止活動の実際 in 秋田

自殺対策に積極的に取り組む秋田県で開催された保健福祉関係者やNPOなど、最前線で自殺防止に携わる人たちのワークショップを支援しました。参加者はより効果的な自殺防止活動を目指し、お互いの活動の共有やロールプレイなどを行いました。

支援団体:特定非営利活動法人国際ピフレンダース東京自殺防止センター
<http://www1.odn.ne.jp/ceq16010/>